

就職支援希望アスリート「エントリーシート」

ふりがな	かねと りん	性別	生年月日・年齢	 ©ロイター/アフロ
氏名	金戸 凜	女	2003年7月18日	
競技名／種別・種目	水泳／飛込		21 歳	
出身地	埼玉県戸田市			
所属先	セントラルスポーツ／日本大学			
練習場所	千葉県国際総合水泳場、東京アクアティクスセンター、JISS			
【選手プロフィール】				
■学歴・職歴				
年	月	学歴・職歴		
2022	3	目黒日本大学高等学校		
2022	4	日本大学スポーツ科学部アスリート学科 入学		
2026	3	日本大学スポーツ科学部アスリート学科 卒業見込み		

■免許・資格

--

■国際大会の主な戦績

年	月	大会名	戦 績
2018	11	グランプリ(シンガポール)	優勝(10m高飛込)
2019	7	世界選手権大会水泳競技大会(2019/韓国・光州)	出場(10m高飛込)
2022	6	世界選手権大会水泳競技大会(2022/ブタペスト)	2位(3mシンクロ飛板飛込)
2024	2	世界選手権大会水泳競技大会(2024/ドーハ)	出場(10m高飛込)

■国内大会の主な戦績

年	月	大会名	戦 績
2021	9	第97回日本選手権水泳競技大会飛込競技	優勝(3m飛板飛込)
2022	8	第98回日本選手権水泳競技大会飛込競技	優勝(3mシンクロ飛板飛込)
2023	9	第99回日本選手権水泳競技大会飛込競技	優勝(10m高飛込)
2025	3	2024年度翼ジャパンダイビングカップ	優勝(10m高飛込)

■自己PR(競技で培った能力や経験を通じて企業に貢献できる内容など)

私の強みは、「常に最善の方法を見極めて、最大限の努力を継続できること」です。私は小学1年生から16年間、飛込競技を続けております。競技生活の中で、右肩と両膝の計5回の手術を経験しました。怪我により出場できなくなった試合も多く、自信喪失やチャンスを逃した悔しさを何度も味わいました。しかし、「目標を達成するために、さらに強くなって競技に復帰する」という強い意志を持ち、痛みを伴うリハビリにも粘り強く取り組みました。競技復帰後は怪我の再発を防ぐために、自分の身体と真摯に向き合い、演技中の動作分析や技術の探求を重ねてきました。自分の状況を客観的に捉え、その日にすべきこと、最善を尽くす練習方法を常に工夫してきました。これらの取り組みが実を結び、2022年の世界選手権では3mシンクロナイズド飛板飛込にて日本人初の銀メダルを獲得。2025年の翼ジャパンでは優勝を果たし、世界選手権の出場権を獲得しました。このような経験を通して、諦めず努力し続ける継続力と、状況に応じて最善を尽くす判断力を身に付けました。どのような状況でも課題を追求し、臨機応変にその日のベストを尽くすことができると考えています。将来はロサンゼルス五輪でのメダル獲得を目指し、世界で活躍する選手として多くの方に、飛込競技を通じて希望や勇気を届けられる存在となれるよう、今後も真摯に挑戦を続けてまいります。また、競技で培った「課題に向き合い最善策を追求する力・努力を継続する力」を、引退後も最大限に発揮し、変化や困難に柔軟に対応しながら、安定して成果を出せる人材として貴社に貢献してまいりたいと考えております。

【採用検討企業への情報】

就職希望条件	
①職種・仕事内容	広報業務・PR業務などに興味がございます、どのような職種でも真摯に取り組めます。
②勤務地	関東
③勤務日数・時間帯	週2日の時短勤務を希望致します。勤務遠征や試合の際はご配慮いただけると幸いです。